

DANCE BASE YOKOHAMA

2020年春 横浜に新しいパフォーミング・アーツの拠点が誕生。

Dance Base Yokohama 4月23日(木) オープン!

横浜開港の記憶を残す歴史の街・横浜。当時、馬車の通り道として整備された馬車道周辺は、レンガ敷きの歩道や歴史的建造物が並び、モダンで美しい街並みが残ります。近年では、アートを通じたまちづくりとして、文化・芸術の持つ創造性を活かし、歴史的建造物をリユースしたアートスペースやクリエイティブな拠点を創出。そんな世界中の人々が行き交い、クリエイティブで魅力溢れる街、横浜・馬車道に、この春、新たなパフォーミング・アーツの拠点「Dance Base Yokohama (ダンスベースヨコハマ)」が誕生。2020年4月23日(木)に開業する「KITANAKA BRICK&WHITE」内にオープンいたします。

Dance Base Yokohama は、プロフェッショナルなダンス環境の整備およびダンスに関連するあらゆるクリエイター育成に特化した事業を企画・運営する、ダンスハウスです。

複合芸術であるダンスの発展のため、振付家やダンサーといったアーティストのみならず、音楽家、美術作家、映像作家、照明デザイナー、音響デザイナー、またプロデューサーやプロダクションスタッフ、批評家、研究者、そして観客の皆様の交流拠点になることをめざしています。Dance Base Yokohamaが、ダンスを巡る多くの人々が垣根なく集える磁場=プラットフォームとなるよう、DaBY (デイビー) の愛称をつけました。

クリエイションを行うレジデンススペースでありながら、地域のアーティストや市民との交流も行い、ワークショップや実験的なトライアウト公演の実施や、ダンスアーカイブ事業など、さらなる多様な試みを展開予定です。

DaBYのアーティストディレクターには、日本初のダンスキュレーターの唐津 絵理(愛知県芸術劇場シニアプロデューサー)を、また、ダンスアーティストと観客、クリエイターを繋ぐエバンジェリスト(伝道師)として、小尻 健太(振付家・ダンサー)を迎えます。他にも日本のダンス環境の改善に向け、積極的に専門家を起用していく予定です。

尚、Dance Base Yokohamaのオープンを記念し、5月8日(金)9日(土)10日(日)には、「都市を振り付ける3日間」をコンセプトに、DaBY周辺地域を会場とし、国内外のダンスアーティストやパフォーマーによる「TRIAD DANCE DAYS (トライアド・ダンス・デイズ)」を開催します。ぜひご注目ください。

CONCEPT

DaBY は、プロフェッショナルなダンス環境の整備とクリエイターの育成に特化した国内でも稀有な機関です。以下の4つのコンセプトを軸に、事業を展開していきます。

Dance Base Yokohama (DaBY) の4つのコンセプト



つくる

Create

プロフェッショナルなクリエイターによるダンス作品の創作
創作活動の成果発表の場となるトライアウト公演



そだてる

Nurture

ダンスの枠を超えた様々なプロフェッショナルによる専門的なワークショップ
ダンスの環境改善やクリエイターのステップアップのための各種セミナー



あつまる

Gather

多様なアーティストやクリエイター・舞台スタッフの交流の場としてのプラットフォーム
市民やダンスファンが気軽に立ち寄れるダンスアーカイブ



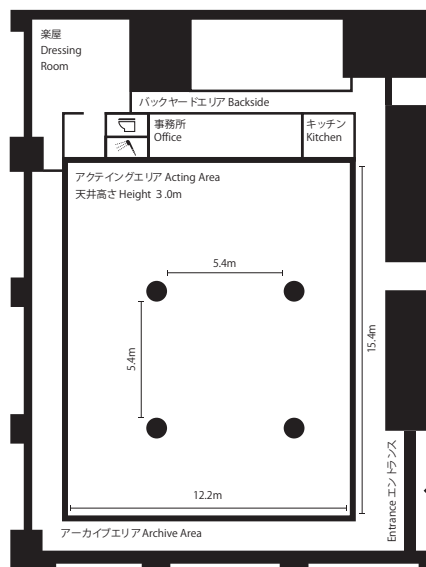
むすぶ

Connect

国内外のダンスを専門とする劇場や団体を結ぶハブ
多様な団体と協働することで、ダンスを通じた社会貢献を実現

SPACE

DaBY は、再開発地域として注目を集める横浜・北仲エリアの「KITANAKA BRICK&WHITE」の3階にあります。ダンスクラス、創作活動（レジデンス）、ショーイング、ワークショップ、トライアウト等を行うアクティングエリアを中心に、周辺の廊下部分にライブラリー等のアーカイブ機能を配置、他にもバックヤードに楽屋やシャワー施設、オフィス、倉庫等を有しています。クリエイターのための真の創造の場にしていくために、さまざまなひとや知と巡り合うことのできる空間構築をめざしています。空間設計は、地元横浜馬車道に拠点を置き、まちづくりやクリエイターネットワーク構築で実績のあるオンデザインパートナーズの一色ヒロタカ等が担当。日本の文化・芸術活動、特にコンテンポラリーダンスの発展に寄与することを目的として、2019年3月1日に設立された一般財団法人セガサミー文化芸術財団が運営・管理していきます。



模型写真：アクティングエリアは用途に応じて使用できる可変性のある空間

DaBY 平面図

横浜・北仲エリアに建設される
KITANAKA BRICK& WHITE (2020年4月完成予定)

DaBY STAFF & PARTNERS

DaBY アーティスティックディレクター

唐津絵理 (愛知県芸術劇場シニアプロデューサー)



お茶の水女子大学文教育学部舞踊教育学科卒業、同大学院人文科学研究科修了。舞台活動を経て、1993年より日本初の舞踊学芸員として愛知芸術文化センターに勤務。2000年に所属の愛知県文化情報センターで第1回アサヒ芸術賞受賞。14年より現職。10年～16年あいちトリエンナーレのキュレーター（パフォーミング・アーツ）。大規模な国際共同製作から実験的パフォーマンスまでプロデュース、招聘した作品やプロジェクトは200を超える。文化庁文化審議会文化政策部会委員、全国公立文化施設協会コーディネーター、企業の芸術文化財団審査委員、理事等の各種委員、ダンスコンクールの審査員、第65回舞踊学会大会実行委員長、大学非常勤講師等を歴任。講演会、執筆、アドバイザー等、日本の舞台芸術や劇場の環境整備のための様々な活動を行っている。著書に『身体の知性』等。

DaBY エバンジェリスト

小尻健太 (ダンサー・振付家)



©momoko japan

1999年ローザンヌ国際バレエコンクール受賞。ネザーランド・ダンス・シアターIに日本人男性と初めて入団。退団後、スウェーデン王立バレエ団、Noism、シルヴィ・ギエム「6000 Miles Away」、キリアンプロダクションに客演する一方、ソロパフォーマンス『Study for Self/portrait』（2017年原美術館）など創作を軸に活動を展開。近年は、渡辺レイ、湯浅永麻とOptoを主宰するほか、フィギュアスケート日本代表選手の表現指導、Dance Lab「ダンサー、言葉で踊る」のキュレーター、さいたまダンス・ラボラトリ（彩の国さいたま芸術劇場）の講師/ナビゲーターを務める。

DaBY 空間設計

一色ヒロタカ + 小澤成美 + 森詩央里 + オンデザイン



横浜馬車道にある設計事務所。使い手の創造力を対話型手法で引き上げ、様々なビルディングタイプにおいてオープンでフラットな設計を行う。建築分野におけるコミュニケーションの可能性を探る実践をおこなっている。主な仕事として、「ヨコハマアパートメント」（JIA 新人賞、ヴェネチアビエンナーレ審査員特別表彰）、「ISHINOMAKI 2.0」（グッドデザイン復興デザイン賞、地域再生大賞特別賞）。市内では、相鉄いずみ野線沿線のまちづくり拠点「みなまきラボ」、横浜 DeNA ベイスターズがつくるスポーツ×クリエイティブをテーマにした創造界隈拠点「THE BAYS」、近作は、神奈川大学国際学生寮、DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA など。

DaBY VI デザイン・宣伝美術

SPREAD (クリエイティブユニット)



小林弘和と山田春奈によるクリエイティブ・ユニット。環境・生物・物・時間・歴史・色・文字、あらゆる記憶を取り入れ「SPREAD = 広げる」クリエイティブを行う。「カラーとコンセプト」を特徴にグラフィック、プロダクト、エキシビションのデザイン&ディレクションに広く関わり、常に社会提案を心がける。主な仕事に、Tokyo Midtown DESIGN TOUCH「六本木カラー-浜谷」（19年）、「国立新美術館開館10周年」記念ビジュアルデザイン（17年）、展覧会「Biology of Metal」（ロンドン）、「燕三条 工場の祭典」、「HARU stuck-on design」、コスメブランド「Celvoke」「F organics」、CDジャケット「相対性理論/正しい相対性理論」など。04年より、生活の記録をストライプ模様で表す「Life Stripe」を発表し注目を集め、日本、ミラノ、スイスなどで個展を開催。主な受賞歴に、red dot design 賞、iF design 賞、D&AD 賞、ドイツデザイン賞、Pentawards、アジアデザイン賞、グッドデザイン賞、日本パッケージデザイン大賞、読売広告大賞ほか。

OUTLINE

- 名称： Dance Base Yokohama (ダンスベースヨコハマ)
- 愛称： DaBY (デイビー)
- 所在： KITANAKA BRICK&WHITE (北仲ブリック & ホワイト) BRICK North 3 階
神奈川県横浜市中区北仲通 5-57-2
- URL： <https://www.dancebase.yokohama> (* 2020 年 1 月 31 日より公開予定)
- 開館時間： 10:00~18:00 (火~土 / 日・月休)
※日曜日には、トライアウト公演やワークショップを実施する場合があります。
※月曜日が祝日の場合は、その翌日に休館いたします。
※年末年始、お盆期間に休館有り。詳細はウェブサイトにてご確認ください。
- グランドオープン： 2020 年 4 月 23 日 (木)
- 運営： 一般財団法人セガサミー文化芸術財団

一般財団法人セガサミー文化芸術財団

セガサミーホールディングス株式会社が、文化・芸術活動の発展に寄与することを目的に 2019 年 3 月に設立した一般財団法人。セガサミーグループが掲げる「感動体験を創造し続ける ~ 社会をもっと 元気に、カラフルに。~」というミッションのもと、感動体験を創造し続ける企業として社会に貢献していくために、様々な文化・芸術分野での活動を行う。

PRESS PREVIEW

DaBY オープンに先駆け、下記の日程でプレス発表会及びプレス内覧会を開催いたします。施設内をいち早くご覧いただくと共に、アーティスティックディレクターはじめ関係者より、Dance Base Yokohama のコンセプトや活動について、また 5 月に開催するオープニング記念イベント「TRIAD DANCE DAYS」について詳細をご説明いたします。

ぜひこの機会に、DaBY についてご理解を深めていただけたら幸いです。

【Dance Base Yokohama プレス発表会及び内覧会】

- 日程： 2020 年 3 月 19 日 (木) 予定
※詳細は後日お知らせいたします。
- 会場： Dance Base Yokohama
神奈川県横浜市中区北仲通 5-57-2
KITANAKA BRICK&WHITE BRICK North 3 階

CONTACT

- PRESS CONTACT：
デイリープレス 川村 美帆
info@dailypress.org

Dance Base Yokohama (DaBY) オープニング記念イベント

「TRIAD DANCE DAYS ー都市を振り付ける3日間ー」開催

2020年5月8日(金) 9日(土) 10日(日)

Dance Base Yokohama (以下 DaBY) のオープンを記念して、国際的に活躍するダンスアーティストやパフォーマーを迎え、「TRIAD DANCE DAYS (トライアド・ダンス・デイズ) ー都市を振り付ける3日間ー」を開催します。

都市そのものと都市の中にあるすべての動きを、持続可能なダンスの振付として広義にとらえ、DaBY を中心とした周辺地域にて、多様な企画を展開していきます。

目まぐるしくその姿や機能を変貌させる都市をひとつの生命体として捉えてみると、それはまるでダンスのように流動しつづける運動体として見えてきます。さらに日常に潜む様々な機能的な動きもひとつの振付として定義し直してみると、横浜の街そのものが舞台に変貌します。2020年5月、横浜という舞台に集う人々が織りなす作品に出演するのはあなたかもしれません。

尚、DaBY 第一弾のダンスプロジェクトとして、国際的に活躍する神奈川県出身の3名のダンサー(安藤 洋子 / 酒井 はな / 中村 恩恵)によるトライアウト公演をアーティストックディレクター唐津絵理のプロデュースにて実施、DaBY と愛知県芸術劇場により共同製作いたします。TRIAD DANCE PROJECT「ダンスの系譜学」と題して、各ダンサーが巨匠振付家のオリジナル作品を踊る<原点>と新たな創作を試みる<継承/再構築>の2部構成により、アカデミックなダンスの振付に迫ります。あわせてご注目ください。



EVENT OUTLINE

- タイトル： 「TRIAD DANCE DAYS ー都市を振り付ける3日間ー」
- 日程： 2020年5月8日(金)9日(土)10日(日)
- 会場： Dance Base Yokohama 及び その周辺地域 *各会場及び詳細は後日ご案内いたします。
- 主催： Dance Base Yokohama
- 企画制作・招聘： Dance Base Yokohama
- 協力： 愛知県芸術劇場
- 後援： 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本
- プログラム： ヨアン・ブルジョワ作品 / コレクティブ・プロトコル作品 / 山崎 広太サイトスペシフィック・ダンス作品
TRIAD DANCE PROJECT「ダンスの系譜学」(出演：安藤 洋子 / 酒井 はな / 中村 恩恵 ほか)
*「ダンスの系譜学」は、愛知公演に先駆けてのトライアウト公演です。

ARTIST PROFILE



©Magali Bazi

ヨアン・ブルジョワ Yoann Bourgeois

1981年9月7日生まれの演出・振付家。フランス国立サーカス学校、フランス国立現代舞踊センター卒業。現在、グルノーブル国立振付センターのディレクターをラシッド・ウランタンと共に務める。2010年に自身のカンパニーを立ち上げるまでは、マギー・マランのダンサーとして活動し代表作『May B』などにも出演。重力や錯覚を操る摩訶不思議な空間演出で注目を集め、AirpodsのCMでも話題になっている。



©Caroline Sotta

コレクティブ・プロトコル Collectif Protocole

2012年に創設。5名のジャグラーによるダンス、演技、ジャグリングから構成されるフランスのカンパニー。与えられた時間でその場所でしかできない実験を試みながら、再現不可能なパフォーマンスを上演する。これまでに、フランス、ヨーロッパ、日本を含むアジアの世界各地の様々なフェスティバルやイベントに参加している。



©Dominik Mentzos

安藤洋子 Yoko Ando

横浜生まれ。木佐貫邦子に師事。2001年よりフランクフルトバレエ団 (Ballett Frankfurt) にアジア人として初めての入団を果たす。04年フランクフルトバレエ団解散後も引き続きザ・フォーサイス・カンパニー (The Forsythe Company) に在籍し、15年のカンパニー解散までの15年間、中心ダンサーとして、世界各国の舞台上で踊り、フォーサイスの40作品に出演。01年以降、カンパニーの活動以外では、自身が作/演出/出演するダンス作品発表のほか、国内外の音楽家や現代美術家等とのコラボレーション、メディアテクノロジーを使ったダンスの創作と教育などにも積極的に取り組んでいる。現在、横浜とNYを拠点に活動。



©Tadashi Okochi

中村恵恵 Megumi Nakamura

横浜市出身。1988年ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞を受賞後、モンテカルロバレエ団を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し活躍。07年に日本へ活動の拠点を移した後も、ダンサー・振付家として、新国立劇場バレエ団、Kバレエカンパニー、パリ・オペラ座のエトワールなどに作品を提供。首藤康之との創作活動も積極的に行っており、「Shakespeare THE SONNETS」(新国立劇場) など多くの作品を上演。また、キリアン作品のコーチも務め、パリオペラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。第61回芸術選奨文部科学大臣賞、第67回神奈川文化賞、18年紫綬褒章など受賞多数。



©Tomohide Ikeya

酒井はな Hana Sakai

アメリカのシアトルに生まれ、神奈川県鎌倉市で育つ。1979年からバレエを始め、畑佐俊明に師事。橋バレエ学校、牧阿佐美バレエ団に入団し、14歳でキューピット役に抜擢、18歳で主役デビュー。97年新国立劇場バレエ団設立と同時に移籍、主役を務める。07年劇団四季の『コンタクト』と09年『アンデルセン』にゲスト出演。13年ユニット〈アルトノイ〉として、島地保武との共同創作を本格的に開始する。

96年村松賞新人賞、舞踊評論家協会新人賞、97年中川鋭之助賞、98年芸術選奨文部大臣新人賞、00年服部智恵子賞、08年舞踊批評家協会賞、09年芸術選奨文部科学大臣賞、15年ニムラ舞踊賞、17年紫綬褒章など。

山崎広太 Kota Yamazaki

ベニンントン大学に所属。サラローレンス大学、カリフォルニア大学ゲスト講師。2007年にニューヨーク・パフォーマンス・アワード(ベッシー賞)、13年現代芸術財団アワード、17年ニューヨーク芸術財団フェロー、18年グッゲンハイム・フェローの各賞を受賞。現在「Becoming an Invisible City パフォーマンス・プロジェクト・観客参加型バージョン」を進行中。20年、ニュージーランドのFootnote New Zealand Danceに、身体とメディウムの関係を追及する新作「霧、神経、未来、オーシャン、ハロー(こだまする)」を10月に初演しニュージーランド国内ツアー、以後、北米ツアー他、計画中。ボディ・アーツ・ラボラトリー主宰。



©Ian Douglas